



学校だより

広島市立彩が丘小学校
 平成22年10月号(13)
 佐伯区河内南二丁目10-1
 Tel 928-1239

平成22年度「基礎・基本」定着状況調査結果について

平成14年度より全県で一斉に実施しております基礎・基本定着状況調査ですが、本年度は6月8日(火)に実施しました。県内の5年生を対象としております。結果説明会を、5年生の保護者の皆様には、10月1日(金)の野外活動説明会で行います。他学年の保護者の皆様には、今回の学校だよりで報告させていただきます。

1 調査の趣旨

この調査は、学習指導要領に示されている目標及び内容に基づき、特に「読み・書き・計算」などの基礎的な内容とともに、思考力・判断力・表現力などの定着状況を把握すること、児童生徒の生活や学習に関する意識や実態及び各学校における教科指導等の実態を把握することを通して、各学校が自校の課題を明確にし、指導内容や指導方法の改善・充実を図るためのものである。

2 調査結果と考察

(1) 調査結果(通過率*) *通過率・・・受験者全体に占める正答者と準正答者(ほぼ正解)の割合

	国 語	算 数
本校平均	83.1%	79.8%
広島市平均	81.0%	77.6%
広島県平均	82.3%	79.0%

国 語 領域ごとの平均通過率(%)

	聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
本校	85.3	90.7	80.1	81.7
市	70.8	86.3	82.7	81.6
県	73.2	87.4	82.6	83.3

算 数 領域ごとの平均通過率(%)

	数と計算	量と測定	図形	数量関係
本校	87.7	77.0	63.2	82.6
市	86.4	72.2	70.0	76.4
県	87.5	75.2	71.1	77.2

(2) 重点課題及び改善する指導内容・方法

【国 語】

重点課題

ローマ字の定着率が「読み」「書く」とともに低い。
 漢字のへんやつくりの構成の理解が県や市の平均を下回っている。
 初見の文章を理解する力が不十分であるため、適切な接続詞が選べていない。

指導内容・方法

ローマ字の指導学年が3年生に移行することをふまえ、より具体的できめ細かい指導を行う。また、習熟させるために、日常的に使う機会を増やし、くり返し練習を行う。(名前や文章をローマ字で書く・連絡帳や日記を書くなど)

中学年で漢字のつくりを意識させるための指導をする。(3年生では、部首を書き込むようになっている漢字ノートやドリルを使うなど。)

初見で文を読み取る体験を多くさせる。そのために1年から4年の国語の帯タイムで、文章読解の時間を設定する。

たくさん本を読ませる。自由に本を読むだけでなく、授業から読書につなげて目的のある読書をさせる指導を行う。(教材文と同じテーマの本や、同じ作者の本を読むなど)

【算 数】

重点課題

- 図形の領域の理解が不十分である。
- 直角三角形の作図や菱形を判断する問題の通過率が低い。
- 「数と計算」の領域の「分数の意味」の理解が不十分
- 「分数の意味」「分数の表」が把握できていない。

指導内容・方法

- 図形の定義・用語をおさえる。
- 1年生から具体物を使っての算数的活動を授業の中に取り入れ、図形に対する感覚を豊かにする。(図形を書いたり作ったり、しきつめたりするなど)用語や言葉で図形がイメージできるようにする。また、文章に書かれていることをしっかり把握する。
- 分数の意味を絵や図などでしっかり把握できるようにする。
- 学習した時点ではできていても、忘れてしまうので、繰り返し復習していく。帯タイムに計算練習だけでなく図形の分野も取り入れていく。

【生活・学習】

よいところ

- 学校へ行くのが楽しいと答えた児童の割合が高い。
- 学習意欲が高い児童の割合が高い。
- 外に出て遊んだり運動したりしている児童の割合が高い。
- 自分の意見や考えを相手に伝えることが出来る割合が、昨年度より上がっている。
- 国語の授業がよくわかると答えた児童の割合が高い。
- 国語の勉強が好きと答えた児童の割合が昨年度より増えている。
- 算数の授業がよくわかると答えた児童の割合が高い。
- 算数の授業でわかったことが、普段の生活や他の教科に役立っていると感じている児童の割合が高い。

重点課題

- 家庭で予習や復習に計画的に取り組んでいる児童の割合が低い。
- 漢字学習に苦手意識を持っている児童が多い。
- くりかえし学習することを好まない児童の割合が高い。
- メモを取りながら聞くことの定着率が低い。
- 指示語の示す部分を正しくとらえることができない。
- わからない言葉などを辞書で調べる習慣が定着していない。
- 文章問題に苦手意識を持っている児童の割合が高い。
- 自分の解き方を理由を挙げて説明することを、苦手になっている児童の割合が高い。
- 地域や子ども会などの行事に参加している児童の割合が平均より低い。
- 社会の出来事や事件などに関心がうすく、新聞やニュースを見ている児童の割合が平均より低い。

指導内容・方法

- 学年×10分の家庭学習の習慣をつけていくよう指導する。
- 1日の家庭学習の時間を決めさせる。
- 自主的に学習に取り組めるように環境を整えたり、練習する時間を確保したりする。(プリントの作成やノートの活用法の工夫)
- 語彙力が高まるよう、日ごろから本を読む習慣をつけるとともに、伝え合う活動を授業や日々の生活の中で多く取り入れるようにする。
- ことばタイムで「再話」を繰り返し学習しメモの取り方を学ばせる。
- 辞書をすぐ使えるよう教室に常に置くとともに、授業の中でも調べる活動を意図的に取り入れていく。
- 教材文の内容を正しく読み取る力をつける指導をしていく。そのために、表現に即して丁寧に読みとったり、文章全体をとらえたりする学習を展開していく。
- 問題を解く手だてとして、絵や図を利用するとともに、相手に分かりやすく伝える方法として、絵や図、具体物を活用するようにさせる。
- ペア学習で自分の考えを伝える練習を日々取り組む。
- 地域行事への参加を積極的に促す。

